

環軸椎不安定症（AAI）：知っておきたいこと

環軸椎不安定症（AAI）とは、脊椎上部の骨に影響する疾患です。この資料では、AAIについて学び、AAI がダウン症のある人にどのような影響があるのかを学びます。また、AAI の原因、徴候、症状についても学びます。

AAI とは何ですか？

環軸椎不安定症（AAI）とは、頭蓋骨のつけ根の下にある脊椎上部もしくは頸部の骨に影響する疾患です。上部脊椎と頭蓋底の間の関節は環軸関節と呼ばれています。ダウン症のある人は、靱帯（筋肉と筋肉のつなぎ目）が緩い、もしくは柔らかいです。その結果、骨の安定性が低下し、脊髄を損傷することがあります。

どれくらいの人が AAI を発症するのでしょうか？

ダウン症のある子どものうち 100 人に 1 人か 2 人が AAI の症状を持っていると言われていますが、正確な数はまだ分かっていません。ダウン症のある成人では、AAI は一般的ではありません。

AAI はどのような症状ですか？

もし、このような症状があったら すぐに医師に相談してください。

- 歩き方が変わる
- 歩くとすぐに疲れる
- 肩、腕、脚の痛み、しびれ
- 頭が片方に傾いている
- 首を動かしたり、支えたりするのがつらい
- 腕や脚の力が弱くなる
- 膀胱のコントロールができなくなる（尿失禁）

AAI が疑われるとどのような検査をしますか？

お子さんに AAI の症状がある場合、レントゲン検査をします。レントゲン検査の結果に異常がある（通常とは異なる）場合、CT（コンピュータ断層撮影）スキャンや MRI（磁気共鳴画像装置）など別の画像検査を行います。

レントゲンだけ撮っておけば安心なのでしょうか？

以前は、すべてのダウン症のある人は、AAI のチェックのために定期的にレントゲン検査を受けるべきだと考えられていました。今はそうでなく、レントゲン検査で AAI がどうか、必ずしもわかるわけではないと考えられています。

時には、症状がないのにレントゲン検査で AAI が見つかることもある一方、レントゲン検査を定期的に行っていたにもかかわらず、AAI が無くなっていることもあるかもしれません。つまり、定期的なレントゲン検査は役に立ちません。症状がある場合に主治医に知らせることが大切です。

AAI はどのように治療するのですか？

症状によって治療は異なります。重症（非常に悪い）の場合は、首の手術が必要になることもあります。重症でない場合は 理学療法も効果的です。

手術が必要でない場合、スポーツやその他の運動をするときは、十分に注意することが大切です。どのようなスポーツや運動が安全か、主治医が教えてくれるでしょう。